

地域の色とアーバンデザイン

1. まちのいろ

赤い街フィレンツェ

白い街スペイン南部

赤い街マレーシアペナン・ジョージタウン

2. 都市の色彩計画と行政の誘導手法について

（『京都市の新景観制度，景観行政と色彩指導について』（京都市都市計画局都市景観部参事・佐竹和男，参考文献 [1]，pp. 83～91）より抜粋）

都市景観と色彩計画

大都市と建設省（現・国土交通省）が共同で費用を負担して，景観制度の中での色彩の問題について研究をした報告書がある。これには京都市が当番市として尽力したのであるが，その中に，行政がどうした指導をすればよいかと言ったことに触れている部分がある。

まず色彩計画の考え方として，基本的な視点は三つ挙げられる。次ぎに指摘するような配慮を基に色彩誘導を進めて行かなくてはならない。

- 1 色彩の永続性，継続性，一貫性に配慮する。過去，現在の色彩の変化を認識し，未来への予測を立てて，一過性のものとしなない。担当者が替わってもその意志が伝わらるよう，色彩計画のプロセスと根拠を明らかにし，良好な色彩が継続されるようにする。
- 2 公共性に配慮する。景観は共有財産であり，自己主張に限度があることを住民に知らしめる。色彩基準の考え方，過程を明らかにして，その合理性を住民に広め，理解と協力を得る。住民の意見を取り入れ，民主的な手続きで推進する。
- 3 関係性に配慮する。色彩計画の都市全体の中での位置づけ，地域との関係性などを総論的，総体的に考える。

3. 京都市における色彩計画

○京都市市街地景観整備条例（昭和 47 年 4 月 20 日条例第 9 号（制定））

第 1 章 総則

第 2 章 美観地区

第 1 節 美観地区の種別

第 2 節 建築物に関する制限

（承認の基準）

第 8 条 市長は、前条第 1 項の規定による承認の申請があった場合において、当該申請に係る建築物が次の各号に掲げる基準に適合していると認めるときは、同項の規定による承認をしなければならない。

- (3) 意匠がけばけばしい色彩、過度の装飾その他周辺の町並みの景観に違和感を与えるものでないこと。

○京都市市街地景観整備条例施行規則（昭和 47 年 4 月 20 日規則第 35 号（制定），平成 8 年 5 月 23 日規則第 22 号）

（承認の基準の技術的細目）

第 5 条 条例第 8 条第 2 項に規定する技術的細目のうち美観地区の種別に応じたものは、別表に掲げるとおりとする。

別表（第 5 条関係）

2 条例第 8 条第 1 項第 3 号に掲げる基準の適用に関し必要な技術的細目

第 5 種地域

- (2) 特定壁面の色がけばけばしいものでないこと。

4. 大阪市の色彩景観計画（参考文献 [2] より）

(1) 内容

- ・色彩を表現し、お互いの認識を共通化するための表現方法として「大阪市景観色彩表示体系」を作成。
- ・景観を乱しがちな突出色の使用を避けるため、基調色について大阪市全体の目安を提示。
- ・景観の場所性を考慮したゾーンごとの色彩景観計画のつくり方の手順を整理。その適用例として「大川・中之島ゾーンの色景観計画」を策定
- ・施設ごとの色彩設計の考え方を建築物を事例に整理し、よりよい色彩景観づくりのための留意点を提示。

(2) まちの色彩景観を調和あるものとするための考え方

- ・地域や学区の色彩景観を乱す突出した色彩の使用を避けること。

- ・地域や街路が全体として秩序ある色彩の使用範囲を創り，守ること。

（3）魅力ある色彩景観を創るためには

- ・色彩は地域の特性を表現する。
- ・色彩を決めるには順序がある。
- ・景観の基調色は類似が基本。
- ・色彩は色調で検討。
- ・強調色は基調色に対する配色で検討

5. 『くまもとカラーガイド 色彩景観ガイドライン』（参考文献 [25] より，平成 10 年 3 月作成）

（1）内容

- 1) 熊本らしい色彩景観をつくるために
- 2) 景観形成地域の色彩ガイドライン
- 3) 特定施設届出地区の色彩ガイドライン
- 4) 大規模好意の色彩ガイドライン
- 5) 重点地域の色彩ガイドラインの提案
- 6) 公共事業等の色彩設計
- 7) 色彩をいかしたまちづくり事例

（2）熊本らしい色彩景観

- ・熊本の色彩景観は，阿蘇や天草など，県内，九州はおろか全国的にもよく知られた豊かな自然を基調としてかたちづけられている。
- ・熊本を代表する景観の中に見られる色彩は，いずれも穏やかで見る目にやさしく，熊本の自然や文化の豊かさを感じさせるもの。
- ・「くまもとカラートーン」が設定されている。

6. 都市の色の調査

1) 調査方法

- ・視感比色方法

適当な色見本（調査用色彩カラーコードやマンセルブック，建築用色見本など）を用いて，人間の目で感覚的に比較して色を特定する方法。

・計器測色法

ポータブルな色彩計測器を用いて壁面を直接あるいは間接に光学的に測定してデータをとる方法。

2) 『風土に基づいた都市色彩計画に関する研究- 東京都江東区を事例として- 』（参考文献 [3]) より

調査対象地区内の色彩計画の提案を行うために、

- ①既存建築物の外壁色を測色し、その色彩分布の傾向を分析する。
- ②風土色を、自然環境に関わる色と歴史・文化環境に関わる色に分けて調べ、その色彩群（パレット）を抽出する。
- ③①項と②項の分析結果と、対象地域の特性を踏まえ、各地域別の色彩特徴を出す。

7. ラッピングバス

バス車体の広告は京都の街に似合わない（参考 URL [2]）

京都市交通局で企画、試験運行されている車体を全面広告とした市バスを調べました。交通機関といえども都市景観を大きく乱し、破壊につながる恐れが大きく、京都の街に調和しないと考える、企画の中止を強く提言します。

京都市には他都市に比べて厳しい屋外広告物に対する規制があり、全国への範たるものとして誇りにしてきました。にもかかわらず、自らが公共交通機関である市バス車体を全面にわたり広告媒体にすることは、市が京都の景観を守るために定めた広告規制を自ら破る矛盾を犯すこととなります。日本を、そして世界を代表する美しい歴史文化都市・京都を謳うのであれば、屋外広告物規制から見ても問題のあるこのような企画を自粛することが知性ある選択と考えます。

見たくないテレビの広告ならチャンネルを換えれば済みます。しかし、車体全面に広告をまとった市バスは市内のあらゆる所へ、景観規制の厳しい美観地区をはじめ風致地区にいたるまでこれ見よがしに動き回ります。その有様は多くの市民や京都を訪ねる内外の観光客にとって、全く迷惑な押しつけ行為と映るのではないのでしょうか。

（中略）

美しい京都を守り、伝え、発展させるため市はさらに不断の努力を重ね、自らを律し、これに反することがらには断固として適切な行政を行うよう要望します。

注：「街の色研究会・京都」は京都の都市景観を色彩の側面から調査、研究している市民研究グループです。

街の色研究会・京都 代表 秋田宗平

8. 都市デザイン

8. 1 都市デザインが行なうべき行為（参考文献 [4], pp.13～14）

- ①物的空間を総合的に形態化し組織化する設計行為
- ②システムとしての都市計画と個別の空間を取り扱う建築デザインとの間を埋める行為
- ③都市空間のなかで実際に生活する人間の空間感覚にもとづいて環境を実態化する行為
- ④場所に根ざした、あるいは周囲の環境と連携した固有性のある空間を形成する行為
- ⑤新たな生活の枠組みとなる空間のあり方に関する合意、あるいは環境への参加を導き出す行為
- ⑥想定される諸活動のコンセプトと空間のイメージを実態化する行為

8. 2 都市環境デザインの領域（参考文献 [5], pp.16～17）

①都市イメージ・行動のデザイン

都市イメージのデザイン，参加のプロセスとステージのデザイン，イベントや祭りのデザイン など

②自然環境のデザイン（→ランドスケープ）

土地の性質に基づく土地利用のデザイン，都市の中における自然のデザイン，自然環境と人工環境のデザイン，気象現象に配慮したデザイン，省資源・省エネルギーの都市デザイン など

③インフラストラクチャー（都市基盤施設）のデザイン

道路のデザイン，高架道路のデザイン，橋のデザイン，護岸・堤防のデザイン など

④オープン・スペースのデザイン

歩行者空間のデザイン，自動車空間のデザイン，広場のデザイン，公園・緑地のデザイン，水辺のデザイン，ストリートファニチャーのデザイン，看板・広告のデザイン，照明のデザイン など

⑤建築と町並みのデザイン

建築と敷地のデザイン，街区のデザイン，町並みのデザイン，商業空間のデザイン，歴史的な町並みのデザイン など

8. 3 よりよいデザインのために

都市環境デザインにおけるデザイン（参考文献 [5], pp.18～19）

→多様な要素を組み立てるという意味での「デザイン」から，感覺的評価に耐え得るいわば「美的デザイン」までの，広い幅を含む。

デザインのプロセス

→「意味の先付けタイプ」と「意味の後付タイプ」

社会的に受入られるデザインの考え方

→デザインによって「可能性のある環境」と「実効性のある環境」が生み出される、

⇒「人間がその土地に生きて暮らしてゆくためのぎりぎりの必要から生まれたものは美しい。」
(上越市高田の雁木についての杉みき子氏の言葉, 参考文献 [6], p.3)

⇒どこに根拠を求めてデザインしていくか？

- ・物理的環境（熱・空気・光・音など）は根拠になるのではないだろうか。しかし・・・。
- ・歴史も根拠になるであろう。

9. レポート課題

以下の1) から4) の課題のうち2つ以上を選択し、レポートを作成して下さい。また、5) と6) の課題は全員取り組んで下さい。書式はA4判であれば、その他は枚数なども含めて自由です。ただし、レポートとしての体裁を整えること。また、専攻名、学籍番号、氏名はどこかに必ず明記すること。

1) 熊本市の気候は、熱環境や空気環境も含めてどのように評価すべきであろうか？講義で紹介した話題に関連づけて述べてください。

→ 例えば、問題点はないだろうか？問題点があるとすれば、どのようにすれば解決できるであろうか？県立大学周辺と市の中心部（市役所、アーケード街付近）の気候に差はあるであろうか？自分の出身地などの気候と比べてどうであろうか？熊本県内の他の都市や地域と比べてどうであろうか？

2) 熊本空港で離発着を行う航空機の騒音について、どのように評価すべきであろうか？あなたの考えや意見を述べてください。

→ 例えば、もし他の空港における騒音についての知識があるならば、比較してみるとどうであろうか？また、他の交通機関からの騒音と比較してみるとどうであろうか？例えば、将来、九州新幹線が開通すれば、どうであろうか？国体道路の自動車騒音は、どうであろうか？自衛隊のヘリコプターは？日赤病院への救急車は？

3) 熊本市中心部（市役所、アーケード街付近）における光環境や色環境について、どのように評価すべきであろうか？「熊本」という風土性、独自性を考慮して述べてください。

→ 例えば、良い点はないだろうか？もしくは問題点はないだろうか？問題点があるとすれば、どのようにすれば解決できるであろうか？熊本には、どのような色が適切なのであ

ろうか？

4) あなたにとっての「親水空間」とは、どこか？その場所のどこが良いのか？どの点が気に入っているのか？わかりやすく説明してください。

→ 写真や図表などを用いるなど、各自で工夫して下さい。

5) 1月27日（金）16:30 から中講義室1で行われる中村泰人先生の最終講義の感想を書いてください。

6) 講義についての感想，意見，批判など自由に。特に，「ここが悪かった。こうした方が良かった。こうして欲しい。」という意見を希望します。

注1) 課題の1)～4)は，理由や根拠が述べられていない，単なる感想を求めているわけではありません。図書館などで様々な資料を参考にしたり，様々なデータを用いるなどして，第三者を納得させることができようとしてください。

注2) レポートを書く際に何かを参考にした場合は，どの部分で参考にしたかがわかるように出典を必ず明記すること。出典を明記せずに引用などをした場合，もしくはどの部分で参考にしたかがわからないような場合は，大幅に減点します。

注3) レポート作成の際に参考となる文献などは，辻原の担当科目である2005年度居住環境調整工学実験の配付資料などを参考にしてください。以下のアドレスからダウンロード可。ただし，Adobe Acrobat Readerが必要（272KBのPDFファイルで提供）。なお，レポートとしての体裁が整っていない場合は，大幅に減点します。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jikkenn.html/jikkenn05.html/jikkenn0501-2.pdf>

注4) 第1回の講義の際にも説明した通り，成績は，出席点（毎回の感想）とレポートを総合して最終評価とします。定期試験はありません。

提出期限：2006年2月10日（金）厳守

提出先：辻原研究室（環境共生学部棟旧棟（生活科学部棟）4階）まで

（電話：096-383-2929（内線492），E-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp）

もしくは，

岡本助手室（環境共生学部棟旧棟（生活科学部棟）4階）まで

（電話：096-383-2929（内線482），E-mail：okamoto@pu-kumamoto.ac.jp）

10. 参考文献（〔〕内は，熊本県立大学附属図書館所蔵情報）

〔1〕『「街なみの色」－21世紀の京都に向けて－1997年度年報』（街の色研究会・京都編，街

- の色研究会・京都，1997年5月，¥3,000（税込み），ISBN：なし）〔所蔵なし〕
- [2] 『やわらぎ 大阪・まちの色 大阪市色彩景観計画ガイドブック』（大阪市都市工学情報センター編，大阪市計画局計画部地域計画課，1996年6月，¥730，（税込み），ISBN：なし）〔所蔵なし〕
- [3] 『風土に基づいた都市色彩計画に関する研究- 東京都江東区を事例として-』（尾崎真理・金敬仁・小林正美，日本建築学会計画論文集，第511号，pp.147-152，1998年9月）〔所蔵なし〕
- [4] 『都市デザインの手法- 魅力あるまちづくりへの展開 改訂版』（鳴海邦碩・田端修・榊原和彦編，学芸出版社，1998年3月，¥3,000+税，ISBN：4-7615-3020-0）〔開架2，518.8||N53，0000225459，0000225460〕
- [5] 『都市環境デザインの仕事』（鳴海邦碩+都市環境デザイン会議関西ブロック編，学芸出版社，2001年11月，¥1,900+税，ISBN：4-7615-1176-1）〔開架2，518.8||N53，0000256354〕
- [6] 『おはなし版画集“がんぎ”第2集（新潟県上越市立高田西小学校・6年生卒業記念児童版画集）』（植木哲夫編，昭和51年度6年生，1977年5月，非売品）〔所蔵なし，上越市高田図書館所蔵，郷土資料室，資料コード：110934007，請求記号：J/73/カ/〕
- [7] 『岡山商科大学学術研究叢書3 都市景観環境と景観保全・形成政策- 景観色彩の分析と色彩計画をめぐって-』（飯島祥二，岡山商科大学，2001年3月，価格不明（2006年1月現在絶版？），ISBN：4-907734-02-6）〔書庫，518.8||I27，0000254841〕
- [8] 『増補新装版 公共の色彩を考える』（公共の色彩を考える会編。青娥書房，1996年9月，¥2,800+税，ISBN：4-7906-0161-7）〔開架2，518.8||Ko54，0000256216〕
- [9] 『まちの色をつくる- 環境色彩デザインの手法』（吉田慎吾，建築資料研究社，1998年10月，¥2,900+税，ISBN：4-87460-566-4）〔開架2，518.8||Y86，0000249657，0000249658〕
- [10] 『都市の風水土 都市環境学入門』（福岡義隆編著，朝倉書店，1995年4月，¥3,500+税，ISBN：4-254-16332-0）〔開架2，519||F82，0000220148，0000221369，0000221370〕
- [11] 『INAX BOOKLET 色彩建築 モダニズムとフォークロア 第2版』（出村弘一・鈴木紀慶編，INAX出版，1999年8月，¥1,800+税（2006年1月現在在庫切れ），ISBN：4-8275-554-5）〔所蔵なし〕
- [12] 『景観の色とイメージ』（小林重順，ダヴィッド社，1994年4月，¥2,819+税，ISBN：4-8048-0207-X）〔開架2，518.8||Ko12，0000294523〕
- [13] 『岩波アクティブ文庫101 色彩楽のすすめ』（尾登誠一，岩波書店，2004年1月，¥940+税，ISBN：4-00-7000101-4）〔文庫本，080||I95||101，0000293272〕
- [14] 『建築の色彩設計』（乾正雄，鹿島出版会，1976年8月，¥3,700+税，ISBN：4-306-03127-6）〔開架2，528.8||I59，0000236070〕
- [15] 『色彩科学選書3 色彩調和論』（福田邦夫，朝倉書店，1996年2月，¥3,800+税，ISBN：

- 4-254-10539-8)〔開架2, 425.7||F 74, 0000293284〕
- [16]『色彩論の基本法則』（ハラルド・キュッパーズ著，澤田俊一訳，中央公論美術出版，1997年7月，¥3,500+税，ISBN：4-8055-0334-3）〔開架2, 425.7||KU 49, 0000189226〕
- [17]『都市のデザイン <きわだつ>から<おさまる>へ』（都市美研究会編，学芸出版社，2002年8月，¥2,800+税，ISBN：4-7615-2292-5）〔開架2, 518.8||I 24, 0000265010〕
- [18]『環境と都市のデザイン 表層を超える試み・参加と景観の交点から』（齋藤潮・土肥真人編，柴田久・田中尚人・上島顕司・永島為介著，学芸出版社，2004年11月，¥2,200+税，ISBN：4-7615-2346-8）〔開架2, 518.8||Sa 25, 0000294131〕
- [19]『土木デザイン論 新たな風景の創出をめざして』（篠原修，東京大学出版会，2003年11月，¥3,600+税，ISBN：4-13-061124-0）〔開架2, 513.1||Sh 67, 0000292995〕
- [20]『景観学研究叢書 テクノスケープ 同化と異化の景観論』（岡田昌彰，鹿島出版会，2003年10月，¥3,200+税，ISBN：4-306-07703-9）〔開架2, 513.1||O 38, 0000292913〕
- [21]『インフラのデザイナー 建設コンサルタントの役割とは』（石井弓夫，山海堂，2003年3月，¥2,400+税，ISBN：4-381-01600-9）〔開架2, 510.921||I 75, 0000294136〕
- [22]『はじめてのランドスケープデザイン』（八木健一，学芸出版社，2002年7月，¥1,900+税，ISBN：4-7615-1177-X）〔開架2, 518.8||Y 15, 0000295114〕
- [23]『地球環境と東京 歴史的都市の生態学的再生をめざして』（河原一郎，筑摩書房，2001年4月，¥2,800+税，ISBN：4-480-86061-4）〔開架2, 518.8||Ka 92, 0000295101〕
- [24]『ランドスケープデザインの挑戦-初めてランドスケープデザインを学ぶ方のために-』（大月勝義，文化書房博文社，2002年3月，1,800円+税，ISBN：4-8301-01973-4）〔開架2, 518.8||O 89, 0000268583〕
- [25]『くまもとカラーガイド 色彩景観ガイドライン』（熊本県，熊本県土木部景観整備課，1998年3月，¥2,000（税込み），ISBN：なし）〔開架2, 518.8||Ku 34, 0000294921〕
- [26]『建築の色彩設計法』（日本建築学会，日本建築学会（発売：丸善），2005年4月，¥3,400+税，ISBN：4-8189-2664-7）〔開架2, 528.8||N 77, 0000292951〕
- [27]『景観法を活用するための環境色彩計画』（吉田慎悟，丸善，2005年9月，¥3,800+税，ISBN：4-621-07629-9）〔所蔵なし〕
- [28]『おはなし科学・技術シリーズ 色のおはなし 改訂版』（川上元郎，日本規格協会，2002年11月，¥1,300+税，ISBN：4-542-90259-5）〔開架2, 425.7||Ka 94, 0000258316〕（ただし，第1版）
- [29]『JIS 使い方シリーズ 新版 色の常識 第2版』（川上元郎・小松原仁，日本規格協会，1999年7月，¥2,300+税，ISBN：4-542-30386-1）〔3 F和, 757.3||KA1||B, 0000093086〕（ただし，増補改訂2版（古い版））
- [30]『色彩論』（ヨハネス・イッテン著，大智浩訳，美術出版社，1971年9月，¥3,500+税，

ISBN:4-568-52004-5)〔書庫,757.3||I1,0000035015〕,〔3F和,757.3||I91,0000247292〕

- [31] 『INAX BOOKLET 建築の彩時記-港町・函館こすり出し-』(アルシーヴ社編, INAX, 1990 年 11 月, ¥1,200+税 (2006 年 1 月現在在庫切れ), ISBN:4-87275-535-9)〔所蔵なし〕

11. 参考 URL

- [1] 配付資料のダウンロード

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/chiiki.html/chiikikan.html>

- [2] 街の色研究会・京都のホームページ

<http://www.kyoto-art.ac.jp/~nara/machihiro/01citycolor.html>

- [3] 京都市総務部総務局文書課のホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/somu/bunsyo/>

- [4] 公共の色彩を考える会のホームページ

<http://www.sgccpp.jp/>

- [5] 都市環境デザイン会議のホームページ

<http://www.judi.gr.jp/>

- [6] 都市環境デザイン会議関西ブロックのホームページ

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/judi/index.htm>

- [7] 東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻景観研究室のホームページ

<http://keikan.t.u-tokyo.ac.jp/>

- [8] 京都大学大学院都市環境工学専攻総合環境学講座景域環境計画学分野のホームページ

<http://ningen1.gee.kyoto-u.ac.jp/>

- [9] 景観デザイン研究会のホームページ (2006 年 1 月現在アクセス不可)

<http://www.lscd.gr.jp/index.html>

- [10] 東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻齋藤研究室のホームページ

<http://www.soc.titech.ac.jp/~saito/>